

主 題：互いに成長する

聖書箇所：ローマ人への手紙 14章13-23節

ローマ人への手紙14章、今日は13節からごいっしょにみことばを見て参ります。

「互いに成長する」、それが今日パウロが私たちに教えてくれることです。パウロはローマの教会に対して「互いにさばき合うことのないようにしましょう」と語っています。パウロがこのように語った理由は、ローマの教会に争いが存在していたからです。教会にあって兄弟姉妹が非難し合ったり、また、さばいたり軽蔑し合っていたのです。パウロはその現状をよく把握していました。そして、彼はこのような争いの原因が罪ではなかったことを知っていました。彼らの争いの原因は「飲食に関すること」、また、「特別な日に関する個人的な考えの相違」だったことをパウロはよく知っています。そこでパウロは「さばき合うことを止めなさい」と強く促すのです。どうしてこのような問題が神を愛する者たちが集まる教会に存在するのか、時代も場所も関係なく、どこにでも存在する悲しい現実、なぜ兄弟姉妹がいがみ合ってしまうのか、なぜ一致できないのか、なぜ愛し合うことができないのか？

原因はすべてここにあると思います。それは「信仰」の問題です。悲しいことに、私たちの信仰がまだ幼すぎて完全でないゆえに、様々な問題が起こって来ます。だから、パウロは「互いに成長しなさい」と教えるのです。「信仰者の皆さん、兄弟姉妹の皆さん、信仰において成長しなさい。そのことが大切だ。」と彼は伝えます。しかも、互いの信仰が成長して行くために、互いが助け合って行くことが必要であることを教えるのです。

まず、13節のみことばを見てください。「ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。」と、パウロはこのような非常に強い勧めを与えています。この中に「さばき」ということばが出ています。実は、この13節に「パウロの知恵」を見るのです。というのは、この「さばき」ということばを、彼は13節の中でもう一度使っているからです。それが13節の最後に訳されている「決心」ということばです。「いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを置かないように決心しなさい。」。どちらも同じギリシャ語を使っています。彼が文法的にこのことばを使ったその使い方を見た時に、彼が伝えたかったメッセージがよく分かります。彼は争いが存在していたことを知っていました。その教会のクリスチャンたちに対して、「今あなたたちがやっているその問題、さばき合ったり非難し合ったり、軽蔑し合ったりと、そのようなことを今すぐ止めて正しいことをやりなさい。」と、それがパウロが言いたいことなのです。しかも、パウロはここで「決心しなさい」ということばを使うのですが、実際に、このことばには「さばき、非難する」という意味もあるのですが、同じように、このことばには「決心、判断する」という意味があるからです。

パウロが言いたかったことは、兄弟姉妹が集まる時に、非難し合うのではなく、さばき合ったりするのではなく、そのようなことを直ちに止めて、他の兄弟姉妹にとって何が益となるのか、何が正しいことなのかをしっかりと判断しなさいと命じるのです。同じことばを使って「今やっていることを止めて、却って、兄弟姉妹の益になること、彼らにとって正しいことを判断する、そのような歩みを今すぐ始めて行きなさい。」と、それがパウロが語ったメッセージです。時代を越えて地域を越えて、私たちが聞かなければならないメッセージです。なぜなら、教会が一つになっているということは、神の前に喜ばれることであり、そして、すばらしい祝福を世にもたらすことになるからです。

そのことは今私たちがこれから見て行くことですが、ぜひ、皆さんに覚えていただきたいことがあります。それは愛する皆さんが今ここにいるとするなら、パウロが語りたくないこと教えたくないことは「あなたはあなたの周りにいるすべての兄弟姉妹たちにとって何が益なのか、どうすれば彼らの信仰が成長して行くのか、何がそのために正しいことなのかをしっかりと考えて、よく考えて、そして、判断できる人になりなさい。」です。もちろん、そのようなことを実践して行くためには信仰の成長が不可欠です。信仰の成長とともにそのようなことが可能になって行きます。

パウロはそのことを、今私たちが見て来たことを、具体的な例を三つ挙げて説明しています。今日はそのことを13節から見ていきたいと思えます。

☆愛の実践のために必要なこと**A. 兄弟姉妹の霊的成長を助ける 13-15節**

信仰者の皆さん、まず、あなたが考えなければいけないことは、自分よりもあなたの周りの兄弟姉妹

たちの信仰が成長するために何が出来るかということです。そして、それを実践しなさいとパウロは言います。そのことが13節から教えられています。特に、この13節からのメッセージは、信仰の強い人々に対して、まだ信仰において幼い人たち、弱い人たちにこのようなことを為しなさいと教えるのです。信仰において強い人たち、霊的なことをよく理解している人たち、神のことをより深く知っている人たち、あなたに告げます。「あなたはまずあなたの周りの兄弟姉妹たち、彼らの信仰の成長のために励みなさい。」と。そのために、13節から15節の中でパウロは三つの注意事項を挙げています。

1. 罪への誘惑をしない 13節

人々が罪を犯すような誘惑を決してあなたはしてはいけないということを言います。13節に「いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを置かないように決心しなさい。」とあります。「妨げになるもの、つまずきになるもの」とは、いったい何のことでしょうか？神学者のジョン・マレーは「これらのことばは比喩的に用いられており、罪に陥らせる機会となるという思想を伝えている。」と言います。つまり、あなたが為すことによって人々が罪に陥るといふ、罪を犯すというようなことがないように注意しなさいと言っているのです。あなたの言動が、その人が罪に陥るきっかけを作り出すようなことがあってはいけないという警告です。人々が道徳的に、また、良心的につまづかないようにするのです。

例を挙げます。例えば、アルコール依存症を克服した人の前で、アルコールを飲むようなこと、もっと悪いのは、その人にアルコールを勧めるようなことをした場合、再び、その人がその依存症に陥ってしまう可能性がある、再び、罪に陥ってしまう可能性がある、だから、そのようなことをしてはならないということです。まず、パウロはそのことを13節に記すのです。「気をつけなさい」と言います。あなたの言ったこと、あなたがしたことによって、信仰的に弱い人が罪に陥ってしまうことがあってはいけないと。そのために、私たち一人ひとりが何を語り、何を為すかということに注意を払うことが大切です。

2. 霊的に悲しませない 14-15a節

彼らが霊的に悲しむようなことがあってはならないとパウロは14節と15節で教えます。14節「主イエスにあって、私が知り、また確信していることは、それ自体で汚れているものは何一つないということです。ただ、これは汚れていると認める人にとっては、それは汚れたものなのです。」信仰の強い人たち、つまり、私たちイエス・キリストを信じる者たちは、何を食べても何を飲んでも良いし、そして、すべての日が同じように大切であると、そのように確信を持って生きている訳です。パウロがこの14節でそのような人たちに対して言うことは、「あなたたちの信じていることは間違っていない。」であり、そのことをここで再確認しています。しかも、面白いのは14節の初めに「主イエスにあって、私が知り、また確信している」とあることです。つまり、パウロは彼の思いつきではなくて、主イエス・キリストと個人的につながった、すなわち、救われたパウロが、そのイエス・キリストとのつながり、交わりを通して確信として得たこと、私たちはそのような食べ物においても飲み物に関しても、特別な日においても自由とされたということを改めてここで教えるのです。

飲食に関して「汚れているものは何一つない」、「すべてはきよいゆえに感謝していただきなさい」と言います。しかし同時に、パウロは汚れていると信じている人たちがいることも事実だと言っています。そのことが14節の後半にありました。「ただ、これは汚れていると認める人にとっては、それは汚れたものなのです。」と、つまり、厳格なユダヤ教徒たち、旧約聖書の教えを厳格に教え込まれた者たちにとっては、イエス・キリストの信仰に至っても、これまで神の教えだとして食べてはならないとされた食べ物を、信じたから食べても良いと言われてもなかなかそれを受け入れることができなかつた、そのような人たちがいるという現実です。もちろん、私たちもいろいろな背景があつて、いろいろな所で育つて、いろいろな教育を受けて、そして、今に至っています。いろいろな考え方があることは事実です。

私の信仰の背景を見た時に、極端ですが、女性がズボンをはいてはいけない、アルコールが出る店に行っていけない、日曜日に仕事をしてはいけない、日曜日に運動をしてはいけないなどというものでした。いつの間にかそれが自分の身に染み付いている訳で、ですから、日本に戻って来て、映画に行くことにはものすごく大きな抵抗がありました。なぜなら、映画に行つてはいけなかつたからです。ハリウッドを応援してはいけないということです。ですから、確かに、そのような人々がローマ教会にいたことは事実です。パウロはそのことをよく知っていました。彼自身がユダヤ人で、彼自身がユダヤ教徒だったからです。彼はその中から救い出された者ですから、そのように実際に守り続けて来たことと聖書の教えが矛盾した時に、なかなか「はい、分かりました」と言うことができなかつたのです。その葛藤を彼自身が経験していたゆえに、彼はよく分かっているのです。

そこで、パウロはそのことを分かった上でこのように言うのです。15節「もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているではありません。」と。何のことでしょう？霊的に悲しませないように心がけていきなさいということです。別の言い方をすれば、霊的成長に良い影響を与えないこと、その弱い信仰者たちの失望となるようなこと、そのようなことは止めなさいということです。なぜなら、信仰の先輩である人たち、聖書を知り神を知り、神のみこころを知り、神に対して忠実に生きている皆さんの大きな責任は、後に続いて来る者たちに、どのように生きていくのかという良い模範を示すということです。あなたのことばにおいても、あなたの態度においても、彼らに良い影響を与えていくということです。今言ったことをよく考えてくださいましたか？信仰の先輩であるあなたは、あなたの後に続いて来る者たちにすばらしい模範を示していくこと、「アーメン」ではないですか？その通りでしょう？それがあなたの責任なのです。

しかし現実には、信仰の弱い人たちに失望をもたらしていること、彼らを霊的に悲しませるようなことをしてしまっていることがあるという問題です。どのようなことが彼らを霊的に悲しませることになるのでしょうか？二つのことがあります。

(1) **悪い模範を示すこと**：信仰の先輩であるあなたが悪い模範を示すことによって、信仰の弱い者たちは霊的に悲しむのです。信仰の弱い者たちが「これは悪いこと、これは罪だ」と思っていることを、もし、あなたが実際に行なったり、口にしたりするならば彼らは傷つきます。ショックを受けます。そのような表現の方が正確かもしれません。しかも、そのようなことが彼らが尊敬するあなたから出て来たならば、より大きなショックを受けるのです。例えば、イエスを信じた者たちは神によって変えられているのであって、その人たちが当然心に抱いている願いは「愛において成長したい」ということであるはずですが。神への愛において、人への愛において成長して行きたいと、その願いをもって信仰生活を歩んでいる信仰的に若い者たち、彼らは信仰の先輩であるあなたが話すことばを耳にします。あなたがだれかの悪口を言っている、あなたがだれかのことを嫌っている、だれかのことを赦していない、そのような時に、彼らの心に霊的な悲しみが生まれるのです。もっと主に信頼して歩んで行きたい、そのように願っている若い信仰者たち、ところが、先輩であるあなたが、いつも心配をし、いつも不安を抱え、そして不満を口にしているならば、彼らのうちには大きな失望が生まれます。「信仰っていったい何なのだろう？イエスを信じるっていったい何なのだろう？」と。だから、私たちがしっかりと受け止めなければいけない責任、後に続いて来る者たちに対する私たちの大きな責任は、「模範を示す」ということです。そのような責任を負っているということです。もし、私たちが悪い模範を示すなら、確実に、信仰の弱い者たちは失望します。霊的に悲しむことになります。

(2) **一方的な強要**：もう一つの問題は「一方的な強要」です。信仰の弱い人たちが「これは悪いことだ、罪だ。」と確信していることを「行ないなさい」と強要された場合、それは彼らの心を苦しめます。彼らの良心を苦しめるのです。確かに、私たちが見た時に、信仰の強い人はこのように言うかもしれませんが。「どうして、いまだにそのようなものにこだわっているのか？いつになったらそれに勝利できるのか？だから、こうしなさい、このように生きなさい。」と。例えば、そのように強要した時に、彼らはそれによって良心が責められることをしなければいけないと思ってしまうことがあります。そうすると、行なっていないながら彼らの良心が叫ぶのです、「これは違うのではないか？」と。そのようなときに彼らは失望するのです。私たちが覚えなければいけないのは、私たちもそうだったように、信仰の成長には時間が必要だということです。今日言って、明日変わっていないからと彼らを責めることはできません。そこには忍耐と祈りが必要であることを私たちはよく知っています。

ですから、霊的に彼らが失望してしまう、彼らが弱ってしまうのは、私たちが悪い模範を示すことと、私たちが彼らに一方的に「こうしなさい」と強要することによってです。そして、パウロは言います。もし、そのようなことをするならば、兄弟姉妹が霊的に弱ってしまうようなことをあなたがしているならば、あなたは愛に基づいて行動しているのではないと。

3. 霊的成長を妨げない 15b節

15節の後半に「キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、減ぼさないでください。」とあります。この「減ぼす」とは、特に、新約聖書を見たときに「永遠の滅び」という意味で使っていることばです。

(1) 永遠の滅び

例えば、マタイの福音書10章28節に「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで減ぼすことのできる方を恐れなさい。」とあります。どのような人を恐れるべきか？永遠の地獄に送ることのできる方です。永遠のさばきを与える

ことのできる方です。ですから、ここで言われている「滅びる」とは「永遠の滅び、永遠のさばき」のことです。では、ここでパウロは、そのような信仰の弱い人たちが滅びに至ると言っているのでしょうか？ローマ人への手紙14章をよく見ると、この信仰の弱い人たちも間違いなく救いに与っている兄弟姉妹です。なぜそう言えるか？15節を見てください。「キリストが代わりに死んでくださったほどの人

を、」とあるからです。イエス・キリストが身代わりに死んでくださり、救いをもたらしてくださった、つまり、救われた人たちのことです。救われた者が罪を犯したからといって永遠の地獄に行くことがあるのでしょうか？そこから救い出された者たちは、永遠のさばきに会うことは決してありません。

(2) 霊的成長の妨げ — 警告

それなら、パウロは何を言わんとしているのかを私たちは考えなければいけないのです。この「滅ぼす」とは、そのように非常に重いことばです。パウロは非常に強い警告を与えるのです。それは、弱い兄弟姉妹たちの霊的成長の妨げとなるようなことをしてはいけないということです。先ほど見て来たように、彼らが霊的に悲しんでしまう、失望してしまう、そのようなことを通して、彼らがその信仰の道から外れてしまうようなこと、そのようなことをしてはいけないという、厳しい警告がここでパウロによって与えられるのです。

悪い模範を示してはいけないし、彼らが霊的に悲しむようなことを私たちはしてはいけないし、彼らが信仰の道から外れるようなきっかけを作ってはいけないと、パウロはここでそのように警告します。「こういうことをしてはいけない」というパウロのメッセージを聞いて皆さん思いませんか？いったい、どれ程私たちは後に続いて来る者たちによき模範を示しているかです。例えば、私たちは自分の家庭にあって、自分の家族に対してどのような模範を示しているかです。彼らが信仰的にどこにいるのかです。彼らが私たちを見て「お父さんの信じているイエス様を私も信じていきたい。」、「お母さんの信じる愛する主を私も愛していきたい」と、そのような模範を私たちが示していけるのかどうかです。正直に言って、私たちはみな、いろんな所で失敗して来ました。振り返って、もし、ある時点に戻れるなら戻りたい、もう一度やり直せるものならやり直したいと思いませんか？残念ながら、その時代に戻ることはできません。でも、できることがあります。振り返ってみて、もし、私たちが正しい模範を示していないとするならば、そして、そのことを神が示してくださったとするなら、私たちは次のことができます。赦しを求めるのです。

聖書が私たちに教えていることは、完璧に神に喜ばれる生き方をしたいとどんなに強く願っても、私たちの現実、そうではない生き方をしているということです。悲しい現実です。言っている内容は正しくても、正しくない言い方で言っていることが多いのが私たちです。言わなくていいことを口にすることが多いのが私たちです。しなくていいことをしてしまっているのが私たちです。数えあげたらきりが無いほど、そんなことは神はちゃんと知っているのです。あなたの弱さを神は知っているのです。あなたの愚かさを神は知っているのです。しかし、もしあなたが神を愛するがゆえに、神の前に正しい歩みをして行きたいと願っているなら、神が示してくださる過ちを告白することです。「お父さん間違っていた。お母さん間違っていた。こういうことを口にすべきでなかったし、こういうことをするべきでなかった。神様が示してくださった。お父さんはあなたの前に謝らなければいけない。お母さんはあなたの前に謝らなくいといけない。」と。

そのステップによって何が起こるのか？あなたが正しいことを始めることによって、神があなたのうちに働き始めていくのです。残念ながら、あなたは周りの人を変えることができないのです。神の関心はあるあなたを変えることです。神の前に正しく生きたいと言っているながら、なかなかそのような生き方ができていないあなたを変えることが神の目的なのです。そして、その働きをあなたが求めるならば、神は今すぐにその働きを始めてくださるのです。そして皆さん、もしあなたがそのように神の前に正しいことを行なっていこうとするなら、あなたの周りの信仰の弱い者たちは、そのあなたの生き方を見て、彼らは私たちを模範として従っていこうとするのです。周りの人たちも同じように成長して行くのです。なぜなら、パウロが最初に教えてくれました。「さばき合うことを止めて、却って、何をすることが人々の益になるのか、何が人々の前で正しいのかを正しく判断しなさい。」と、その実践なのです。そのことを実践していきなさいと言うのです。私たちが考えなければいけないのはそこです。どうすれば兄弟姉妹にとって益となるのか、そのことをよく祈り考えて判断することです。

皆さんもよくお分かりになっているように、また、恐らく皆さんも何度か口になさっていると思いますが、ことばよりも行動の方が強い説得力をもっています。もっと言うなら、どんな説教よりも、犯した失敗を正しく解決するという実際の行動の方が強い説得力をもっています。私たちがどんなに弁解をしてもみな見ています。そして、そのようなことをすれば、あなたは「悪いことをすれば、失敗したと

きには弁解すればすむ。」と教えていることになるのです。信仰者の皆さん、神が喜んでくださることをやろうとするのなら、まず、そこから始めることです。神が示してくださるあなたの罪を告白して、正しくあることです。「私が誤っていた」と言うことは、私たちのプライドがそうさせまいと働きますが、「正しいことだからそうする」としたときに、神はあなたを変えていってくださるのです。

まず、私たちがしなければいけないことは、自分のことよりも周りの兄弟姉妹たちの霊的成長を助けていくことです。私たちの中にそのような人が必要だと思えます。人を責めるよりも「私は間違っていました。赦してください。」と言える人です。

B. 自らの霊的成長に励む 16-18節

「周りの人たちの成長のために尽くしなさい」と言ったパウロは、今度は「あなた自身の成長にあなたは励んでいきなさい」と言います。

1. 誤った歩み 16節

まず、16節を見ると、自らの成長に関して誤った歩みが教えられています。「ですから、あなたがたが良いとしている事からによって、そしられないようにしなさい。」とあります。パウロは人からそしられるようなことは避けなさいと教えます。「そしる」とは「悪口を言うこと、中傷すること、ののしること、非難すること」です。つまり、私たちは主によって与えられた自由を感謝して楽しむことができるというのです。食べ物に関して、かつてのユダヤ人のように規制されることなくいただくことができます。また、偶像にささげた肉に関してもいただくことができます。主によって与えられた自由を楽しむことができるのです、もちろん、飲み物に関してもそうです。しかし、これは聖書が教える罪を犯しても良いということを行っているのではないということなのです。

あくまで、私たちが自由を楽しむことができるのは、聖書が「これは間違っている、これは罪だ」と教えることではないことです。聖書が罪だと言っていることを私たちがどのように正当化しても罪です。してはいけないことです。自由が与えられたということは、自分の好きなように生きてても良いということでは決してありません。律法も全くない自由な生活、そのようなことではありません。あくまで、私たちはみことばに照らし合わせて、聖書が「ノー」と教えることから離れることです。しかし、聖書が「ノー」と言っていないことに関しては、私たちは自由があるのです。その自由の中においても、私たちは賢くしなければならないのです。

一つの例を考えてみましょう。よく問題になるのはアルコールのことです。ある人はこのように言います。「聖書の中には酒に酔ってはいけないと教えられているが、酒を飲んではいけないとは教えられていない。」と。確かにその通りです。もちろん、聖書の中を見ると、強い酒に対する禁酒の教えが出て来ます。箴言20：1には「ぶどう酒は、あざける者。強い酒は、騒ぐ者。これに惑わされる者は、みな知恵がない。」とあり、31：4-6には「レムエルよ。酒を飲むことは王のすることではない。王のすることではない。「強い酒はどこだ。」とは、君子の言うことではない。:5 酒を飲んで勅令を忘れ、すべて悩む者のさばきを曲げるといけないから。:6 強い酒は滅びようとしている者に与え、ぶどう酒は心の痛んでいる者に与えよ。」と書かれています。強い酒は、死を目前にしているような苦しみにある者たち、痛みにある者たちに、その痛みを和らげるために使われたと記されているのです。

今考えたいことは、確かに自由がありますが、そこには正しい判断が必要であるということなのです。たとえば、何を飲んでもかまわないと言って、先ほども話したように、アルコール依存症から解放された人への誘惑となるような行為をすることはしてはならないことです。当然のことです。それは正しいことではありません。ですから、私たちは「だれの前で」「どこで」ということをよく考えなければいけないことは確かです。もちろん、クリスチャンでもアルコールを口にされる方はいるでしょう。それぞれの家庭において。私たちが言えることは、それが神の栄光を現わすとあなたが確信しているなら堂々とすべきです。もちろん、これはアルコールのことだけでなくすべてにおいてです。でも今一度、私たちはこのアルコールについて考えなければいけないことは、信仰的な観点からだけでなく、社会的な観点から見た時に、アルコールはいろいろな問題と関連しているということなのです。毎日のように悲しい事件が起こっています。幼い子どもたちのいのちが飲酒運転をした者たちによる事故で犠牲になったニュースを、私たちは頻りに耳にします。

二つのアドバイスをします。一つはアルコールを口にすることによってそこには必ず危険があるということなのです。あなた自身がアルコール依存症になってしまう可能性があります。それ程大きな力を持ったものです。それが「なければならない」となってしまう可能性があります。もう一つは、子どもへの悪い影響です。このようなアンケートの結果が出ています。全国九つの都道府県の14,000人の高校生に飲酒調査を行なった所、飲酒している高校生は実にその80%に及んだとあります。週一日以上

飲酒して、酔うまで飲むような問題飲酒者は、男子では25%、女子で11%です。これは外国ではなく日本の高校生のことです。なぜ、子どもたちが酒を飲むようになったのでしょうか？多くの場合、「親に勧められたのがきっかけ」とあります。次に、これはアメリカの統計ですが、十代の子どもが酒を口にする理由は、彼らの親が飲むからという統計結果が出ています。つまり、子どもたちは親である皆さんの歩みを見ていて、皆さんの真似をするということです。ですから、私たちは責任を持たなければいけないのです。確かに、聖書が罪だと言っていないことに関しても、それがつまづきをもたらすものであれば、私たちは止めるべきです。お酒は非常にリスクが高いです。悪い影響をもたらすリスクが高いです。より知恵が必要です。あなたがしっかりと考えて、どのような模範を後に続いて来る者たちに残していくのか、そのことを考えて選択をすることです。

もう一度今日のテキストに戻って、確かに、16節においてパウロは「自由が与えられているし、そして、何を食べても飲んでも良いというその自由は間違っていない」と言った後で、「ただし、それによって周りの人たちに非難されるようなことがあってはいけません。」と教えました。人々からそしられることがあってはいけません。なぜ、人々は信仰者の行為に対して非難するのか、悪口を言うのでしょうか？この「そしられる」という結果をもたらすその原因は、人への配慮のなさ、愛のなさです。それが原因なのです。つまり、人々が自分のことだけを考えて、自分のしたいことだからするという利己的な生き方が問題なのです。「いいじゃないか、何をしたって、悪いことではないのだから。」と、そのように自分のことしか考えない、このような考えをもっている人は、まさに、自分のために生きている人です。自分のために生きている人に信仰の成長は見込めません。自分のことを中心に物事を見ている人に成長などないのです。私のために何をしてくれるのかといつも考えている人に成長はありません。人のために何をするか、何ができるのかを考えている人に成長があるのです。

なぜなら、私たち信仰者は自分のために生きるのではなく、人のために生きる者として生まれ変わったからです。人々の益のために、また、彼らの霊的成長のために生きる者として生まれ変わったからです。ですから、そのような歩みをするまで、私たちに成長は見られないのです。私たちが何度も学んで来たように、信仰者の皆さん、だれかを助ける働きを始めてください。だれかを励ます働きを始めてください。休んでいる人がいるならその人に手紙を出すこともできるし、何らかの形で連絡を取ることもできます。何らかの形で励ますことも、祈っていくこともできます。様々な形であなたの目を自分から周りの人たちに向けることです。その時に神があなたを変えていってくださるのです。

パウロは16節で、このような歩みをしてはいけません、自分のことだけを考えて歩むような生き方をしてはいけませんと言います。

2. 正しい歩み 17-19節

パウロが言うことは、私たち信仰者にとって飲み食いよりももっと大切なことがあるということです。それは「神に喜んでいただくこと」です。私たちの主人である神に喜んでいただくこと、それが私たちにとって最も大切なことです。

1) 正しい歩みの確認 17節

17節に「なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。」と書かれています。そこでパウロはこの17節に、正しい歩みの確認として三つの名詞をもってそのレッスンを与えます。

- (1) 「義」：日々主の前に正しく生きていくということです。
- (2) 「平和」：教会において兄弟姉妹が愛し合っていくことによって、争いではなくて、そこに平和が生まれて来ます。あなた自身がそのことに努力するということです。
- (3) 「喜び」：主の前にあなたが正しく歩んでいることの証拠です。「聖霊による喜び」とあります。聖霊がもたらしてくれる喜びです。ですから、私たち信仰者がいつも喜んでいるのは、喜ばなければいけないのではなくて、聖霊が私たちのうちで喜んでいるから私たちも喜ぶのです。神を喜ばせることをしているときに、あなたが正しく歩んでいることを神はあなたのうちに喜びという形を示してくださるのです。本当に心が喜んでいるときは神への賛美が生まれて来ます。神を喜ばせている、それが証です。私たち信仰者はイエスの喜びをいただいたのです。ヨハネ15：11に「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」とある通りです。私たちはイエスの喜びをもって生きる者になったのです。

ですから、私たちが正しく生きているかどうかを確認するためにパウロは言うのです。「私は日々主の前に正しく生きているかどうか？私は争いではなくて平和を作り出す者として生きているかどうか？そして、そのような歩みをしている証拠として、神から与えられる喜びがあるかどうか？」です。

そのようにして自らを調査しながら自らの歩みを確認しなさいと言うのです。

2) 正しい歩みの結果 18節

18節に「このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々にも認められるのです。」とあります。つまり、今見て来たように、愛をもって自分よりも人のことを優先して神に喜ばれる歩みをしている人のことです。そのような歩みをしている人は神に喜ばれ、また、人々にも認められるのです。二つのことが言われています。

(1) 神がお喜びになる

あなたがそのような歩みをしているなら、あなたの主が喜んでくださると言います。神の前に正しく歩み、愛をもって人々に仕え、そこに平和をもたらし、そして、正しく歩んでいるゆえにあなたのうちに喜びがある、そのような歩みをしている人は神が喜んでいうことです。信仰者の皆さん、あなたの歩みは神に喜ばれているかどうかです。神が約束されたこの喜びをもってあなたが歩んでいらっしゃいますか？救われたことだけでなく、こうして生かされていること、こうして主を礼拝すること、そして、いろいろな祈禱課題があり、困難があり、試練があっても、そのようなことをすべて神に感謝して歩んでいるかどうか？もし、正しく歩んでおられるなら、そして、神が喜んでおられるなら、あなたも同じように神の喜びをもって喜びます。

(2) 証がなされる

「人々にも認められる」とはそういうことです。人々はあなたの生き様を見て、確かに、あなたのうちに神がおられることを見るということです。そのためにあなたも私も救いに与ったのです。人々はどのような神をあなたを通して見ているのでしょうか？十字架で死んでよみがえられた真の神イエス・キリストをあなたを通して見ているかどうかです。あなたが正しく歩むなら、こんなにすばらしい結果があなたに伴うとパウロは言いました。

3) 正しい歩みの実践 19節

19節「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」と、ここに二つの「追い求めること」が記されています。「平和に役立つこと」と「霊的成長に役立つこと」です。

◎追い求めるべきこと

(1) 平和に役立つこと

これは平和を作り出すことです。平和を作り出していくようなことをしていきなさいと、そのようにパウロは勧めるのです。それは神に仕える者として愛をもって人に仕えていく生き方です。見て来たように、自分のことより人のことを優先するのです。自分を喜ばせるよりも人を喜ばせることをまず選択するのです。兄弟姉妹と交わる時に、人の悪口や不満、批判などがその口から出て来るようでは、神も喜ばれないしその交わりが祝されたものにもなりません。信仰者の皆さん、何度か話しましたが、私たちは決心しなければいけないのです。「この口から悪いことばを発しない。この口から悪いことばを出さない。」と。そのためには私たちの心が正しくなければいけません。なぜなら、正直に言って、人が集まったときにみな同じように愛しているかということ、現実はなかなかそのようにはならないからです。どうすればいいのでしょうか？神の前に出て行くことです。「主よ、どうぞ、すべての人を愛することができるよう助けてください。」と。みことばが教えたように、相手があなたの敵であったとしても、神の祝福を祈ることです。みことばはあなたの弱さを知って、どうすればみことばに従っていけるのかを詳しく教えてくれています。私たちはみことばを聞いてもそれをすぐに忘れてしまうから何も起こってこないのです。もし、あなたがその決心するなら、あなたがいるところ、あなたの周りに人々が集まったときに、そこには神への称賛がある、神への賛美が出て来る、そのような集まりを作り出すことができるのです。隣人を、敵を愛するのは、神の敵であった自分自身がどんなに愛されているのかを覚えるとき、隣人を、敵を赦すことができるのは、罪人のかしらであった自分自身が赦されていることを覚えるときです。

(2) 霊的成長に役立つこと

そして同時に、霊的成長に役立つこと、人々の成長のために生きるのです。どうですか？皆さん、いろいろな話をするときだれかが救われたということを知ることほど嬉しいことはありません。神がすばらしいみわざを為しておられるということを知ること、私たちの心に大きな励まし喜びをもたらします。人の悪口を聞いて心が喜びますか？不平や不満を聞いて喜びますか？私たちが神のすばらしさを聞けば聞くほど、私たち自身の心が喜んでいくのです。私たちの口からそのようなものが出るだけでなく、みな信仰が成長するために、みな主を見上げるように、私たちは霊的成長に役立つことを目指

して実践して行きなさいとパウロは教えるのです。正しく生きていきなさい、正しく歩んでいきなさいと、パウロは教えるのです。

C. とともに霊的成長を目指す 20-23節

人々の成長に励んだあなたが、自分の成長に励んだあなたが、今度は協力し合って互いに霊的成長を目指しなさいと言います。そのために避けなければならない二つのことが記されています。

◎互いの霊的成長のために避けるべきこと

1. 神のみわざを破壊すること 20-21節

20-21節「食べ物のことで神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。:21 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。」、パウロはここで「破壊」ということばを使いました。なぜなら、これは私たちが生かされている目的に反する行為だからです。私たちは兄弟姉妹の信仰を「建て上げていく」という責任を負っています。教会の使命もそうです。みことばを聞いて皆さんの信仰が成長し、皆さんがキリストにあって建て上げられていくのです。この「建て上げていく」という働きの反対が「破壊する」ということです。ですから、本来、私たちが目指すべきことと、全く逆のことがここに上げられているのです。それをしてはいけないと言うのです。だから、信仰が成長することを目指さなければいけないのに、信仰の成長のつまずきとなるようなこと、妨げとなるようなことを私たちは避けなければいけないのです。20節に「それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは」とあり、21節にも「兄弟のつまずきになることをしない」とあります。

これまで見て来たように、信仰の強い人は、それが信仰の弱い人たちの信仰の成長の妨げになるかどうか、そのことをよく考えて選択をすることです。そのためにはいつも主の前に助けをいただきながら生きていくことです。聖霊に満たされて、聖霊の助けをいただきながら生きていくことです。

2. 信仰から出ていないことは止める 22-23節

信仰の弱い人から強い人に関する注意事項が最後に記されています。「あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。:23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。」。

・信仰の強い人たちに ⇒ 神の前に正しいと信じることをしなさい 22節

・信仰の弱い人たちに ⇒ 良心が責めるのであればしてはならない 23節

パウロは「それぞれが神の前に正しいと信じることを行なっていくなさい」と言います。私たちの責任は神に対するものです。あなたが神の前に立った時に、神の前にあなたが正しく歩んだのかどうか問われる訳です。だから、神の前に正しいと思うことをしっかりと行なっていくなさいと言うのです。そして、最後に言ったことは、もし、あなたの良心が責めるのであれば、それをしてはいけないということです。ですから、人から強要されても、あなたが「してはいけない」と思っていることをするのは間違っているのです。みなそれぞれに信仰の歩みが違って、みな神に対する責任を負っているのです。すべてに共通していることは「あなたの心が神の前に正しいと思うことをやっけていきなさい、神のために精一杯やっけていきなさい。」です。もし、そうでないならやっけてはいけないと言うのです。

私たち一人ひとり、神の前に何が喜ばれるのかを考えて生きていくことです。そして、そのように歩んでおられる信仰者の皆さん、私たちは互いに助け合いながら信仰の成長を目指すのです。この地上にあって私たちが神から望まれていること、それはキリストに似た者へと変えられていくことです。そのプロセスはもうすでに始まりました。私たちはそれを邪魔しないことです。聖霊はその働きをするためにあなたのうちに与えられているし、こうして教会が与えられているのはともに励まし合いながら成長するためです。

そのためには、今私たちが見て来たように、神の前に正しく歩んで行くことです。まず、あなたがそのように歩み、そして、兄弟姉妹を助けて、彼らもともによりキリストに似た者へと成長していくように励んでいくことです。私たちが望むことは、この教会にあって、自分のことよりも兄弟姉妹が成長すること、そのことを願いながら最善を尽くしている、そのような人々が増やされていくことです。自分の言動によく注意してつまずきを与えないように、もし、悲しいことに、そのような結果が起こったなら、我々は正しく精算することです。なぜなら、私たちはだれ一人として完璧に生きることはできないからです。大切なことは、過ちを犯した時に、失敗をした時に、それをどのように正しく対処していくかです。主の前に正しく歩み続けてください。その時にあなたは成長し、そして、我々はともに成長していくのです。そのような信仰者として今日歩んでください。

《考えましょう》

1. 兄弟姉妹の霊的成長のために、あなたにできる手助けを教えてください。
2. あなたが霊的に成長するためには、どうすればよいでしょうか？
3. 人への非難を主が悲しまれる理由を挙げてください。
4. 今日の聖書の箇所から、主があなたに望んでおられることは何だと教えられましたか？